

平成 26 年度関東東海北陸農業試験研究推進会議経営部会及び春季研究会開催要領

関東東海北陸農業試験研究推進会議

経営部会 部会長 仁平 恒夫

1. 趣旨

関東東海北陸地域における農業経営研究の平成 25 年度の研究実績と、26 年度の研究の推進方向について検討・討議を行う。また、推進部会に併せて春季研究会を開催する。研究会では、「農業生産工程管理手法（GAP）の活用による経営改善効果と課題」について議論を行う。

今日の農業では、農業経営の規模拡大や多品目化、これらに伴う従業員数の増加とともに、食品安全に関するリスク管理や環境保全など、さまざまな取り組みが求められ、農業経営者が管理すべき内容が複雑化している。こうした環境変化のもとで、農業経営者にとって、農場の生産工程を適切に管理し、これを経営改善に結びつけていくことが重要な課題となっている。これらの課題解決の上で、農業生産活動における各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を基にした農業生産工程管理（GAP：Good Agricultural Practice）の導入は、ひとつの有効な解決策と考えられる。そこで研究会では、農業生産工程管理（GAP）の活用による経営改善効果に焦点を当て、3 名の方から国内の GAP 取り組み事例を対象としたアンケート調査や事例調査の結果、および営農現場における GAP 取り組みの現状と経営改善効果、課題などを報告していただく。以上を基に、今後の現場での「GAP 的取り組み」の推進に資するため、技術普及や農業経営研究の視点から、現場に対して、どのような仕組みの提案や知見の提供が有効であり、それに応えるためにはどのような研究課題や研究手法が必要か、などを議論する。

2. 開催日時 平成 26 年 6 月 26 日（木）13 時 30 分～6 月 27 日（金）16 時

3. 開催場所 農林水産技術会議事務局筑波事務所 3 階 展示会議室 等

4. 議 事

1) シンポジウム 6 月 26 日（木）13 時 30 分～17 時 15 分

テーマ 「農業生産工程管理手法（GAP）の活用による経営改善効果と課題」
座長 迫田 登稔氏（中央農業総合研究センター）

第 1 報告 「GAP 導入による経営改善効果について（仮題）」
田口 光弘氏（北海道農業研究センター）

第 2 報告 「(有)しろま農場における GAP の取り組みの現状と課題（仮題）」
津滝 俊幸氏（(有)ティーエム（しろま農場）代表取締役）

第 3 報告 「新潟県における生産現場での GAP への取り組みの現状と課題（仮題）」
長谷川 雅義氏（新潟県農林水産部経営普及課）

コメント 草野 謙三氏（茨城県農業総合センター）
大久保 高典氏（長野県農業試験場）

総合討論

2) 個別報告会 6 月 27 日（金）9 時～12 時

3) 関東東海北陸農業試験研究推進会議経営部会 6 月 27 日（金）13 時～16 時

- 議事 1) 平成 25 年度の研究成果について
2) 平成 26 年度の研究の推進方向について
3) 平成 26 年度秋季研究会及び推進部会の開催について
4) その他

5. 参集範囲

関東東海北陸地域公立試験研究機関・行政機関・普及機関、農林水産技術会議事務局、関東農政局、東海農政局、北陸農政局、関東東山東海農業経営研究会関係者、農林水産政策研究所、農研機構内研究所、中央農業総合研究センター、その他部会長が必要と認めた者

6. 連絡先

中央農業総合研究センター農業経営研究領域（担当：河野恵伸）

茨城県つくば市観音台 3-1-1 TEL：029-838-8422 FAX：029-838-8441

7. その他

参加申し込み等については、中央農業総合研究センター経営部会事務局より別途連絡する。